京都府立医科大学における利用者教育の事例

山下　ユミ
京都府立医科大学附属図書館

１．背景

京都府立医科大学は医学部に医学科と看護学科を持つ公立の単科医科大学である。キャンパスは２つあり、図書館は、本館のほかに分室が１つある。

図書館が図書館利用法の授業を学生に対して行うようになったのは平成 9 年のことである。それから 10 年が経過したが、この間に、CD-ROM、DVD、電子ジャーナル等の電子資料が登場し、インターネットが爆発的に普及し、なくてはならないものとなった。

２．これまでの実施状況

図書館では大きく分けて３種類の利用者教育を行っている。オリエンテーション、学生に対して行う図書館利用法の授業、図書館主催の講習会・説明会（出前講習含む）である。

オリエンテーションは新入生、研修医、新入職員に対して行っているが、図書館ツアーをできるだけ取り入れて、図書館の様子を目で見て感じていただけるようにしている。

図書館利用法の授業は、医学科の 2 年生と 3 年生、看護学科の 1 年生～3 年生に対して行っている。授業では、OPAC を使った図書の探し方、PubMed や医中誌 Web を使った雑誌論文の探し方などの理解等を目的としており、ほとんどの授業は総合講義として大学のカリキュラムに組み込まれている。

図書館主催の講習会・説明会では、PubMed や電子ジャーナル、有料契約しているデータベースなどを取り上げている。出前講習は、利用者の希望に応じて内容を決定し、図書館員が出向いて行う講習会である。

３．今年度の取り組み

年間計画をあらかじめ決定し、それに基づいて年間の講習会等を実施している。今年は図書館システムの更新等を控えているので、新しいシステムやツールと連携した講習会・説明会が行えるようにスケジュールを検討した。また、利用者のニーズに基づいて効果的に講習会を実施するため、今年は利用者へのアンケートやインタビューといった方法での調査を計画している。

４、今後の課題

人員削減のため、図書館の職員数は年々減少している。その中で、利用者のニーズに合致した講習会等を効率的に行うため、ニーズ調査が必要である。また、図書館主催の講習会等の広報を効果的に行うべきである。

図書館では、利用者教育を通じて、利用者に図書館の利用方法やデータベースの検索方法を理解してもらうと同時に、それらの活動が、担当者以外の職員を含めた図書館員のスキルアップや育成に役立つことを期待している。